

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1273300317		
法人名	(株)ユニマットそよ風		
事業所名	四街道ケアセンターそよ風(いずみユニット)		
所在地	千葉県四街道市物井金鑄塚1596-4		
自己評価作成日	平成23年11月25日	評価結果市町村受理日	平成24年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	平成23年12月14日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「安全で楽しく家庭的」というスローガンを掲げており、入居者一人ひとりの気持ちに寄り添う支援をすることで、可能な限りそれぞれの自己実現を目指している。また、職員が入居者一人ひとり心身共に安心して過ごせる、居場所作りを大切に意識しながら支援に努めている。入居者の健康維持につながるよう、日常的に独自の体操や廊下歩行を実施している。入居者や家族の要望を取り入れつつ、外出や外食の機会を設け、その他大きな行事を毎月実施している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平成23年9月に母体法人がこれまでの(株)メデカジャパンから(株)ユニマットそよ風に変わった。しかし運営理念、スタッフ等はこれまで通りで、入居者、家族に影響がないようにしている。また、この1年の間にターミナルケア、看取りを実施し、職員は貴重な経験をした。これをきっかけに訪問診療の導入、24時間、医師と連絡が取れる体制が整った。管理者はスタッフの指導、ケアの質向上などを常に意識してリーダーシップを取っており、現場従業者も向上心が強い。訪問調査日の昼食時は、入居者と職員が和気あいあいと鍋を囲んでいた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時より、会社としての理念の他、「安全で楽しく家庭的」という当GHだけの独自スローガンを掲げています。これを実現するためにミーティングで話し合っています。	法人のそよかぜ憲章と事業所独自のスローガンが現場の判断基準となっている。例えば「家庭的」という文言が入居者の近くで、又は入居者と一緒にするという行動につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会から夏祭りのお誘い、近隣の小学校、幼稚園から招待がある等、地域の一員として認識され交流を図っています。事業所も学校生徒の社会科学見学や課外授業を受け入れ協力しています。	近隣との日常的な交流の他、専門学校生の実習受入れ、事業所主催の認知症サポーター養成講座の開催など多様な活動をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや見学、教育機関の実習生受け入れを積極的に行っています。認知症サポーター養成講座、救命講習を実施し、地域の方々にも呼びかけ、ご参加頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果の報告、現状報告や意見交換、質疑応答など行い、後のサービスに反映できるようにしています。必ずテーマを持ち、要点を絞って会議をするよう心掛けています。訪問診療導入にもつなげ、連携を図りながら実践しています。	会議では入居の親を心配する家族の不安、気持、運営への質問など多くの声が出ている。認知症サポーター養成講座や訪問診療の実施などは家族の声がきっかけで始まった。地域代表の参加は未だ得られていない。	認知症サポーター養成講座は地元住民や学校の先生の参加もあった。今後は運営推進会議に地域からの参加が得られる様、工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各市町村への挨拶や、各事業所の研修会にも積極的に参加しています。運営推進会議にも担当者に参加して頂き、意見交換を行っています。	市の担当者とは何でも話し合える関係が出来ている。ホームの運営状況、入居者の状況などを報告する他、市からも情報がメールで送られてくる。運営推進会議には毎回参加がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外部主催の研修に参加し、身体拘束廃止委員会を設置しています。マニュアル、会議等で正しい理解ができるよう学び、ケアに取り組んでいます。ペランダの出入り口は開錠し、改善に向けています。	全体会議のなかで身体拘束廃止委員会の時間を設けている。事例検討では「ちょっと待つて」と言わないケアについて議論している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は身体拘束廃止研修を受講しており、高齢者虐待防止関連法や身体拘束についてGH会議や全体会議等で取り上げ、職員全体で学んでいます。マニュアルも作成しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度を利用される入居者もあり、スタッフ全体で制度の理解を深められるよう会議等にて情報を共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には全て読み上げ、説明をしてから同意を得ています。又、本人や家族からの質問、改定等の際には書面や口答にて納得頂けるまで詳しく説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等にて入居者や家族の意見を吸い上げています。家族等の面会カードには意見・要望記入欄を設けています。契約時には苦情意見窓口として行政機関の連絡先の記載もしており、家族に伝えています。	自分の家のように訪問し、職員と一緒にホームの仕事を手伝う人もいます。家族意見は面会時に聞くことが最も多いが、面会カードに意見を記載してもらうように勧めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議や全体会議、個別等、職員の意見や提案を聞いています。運営管理からのみではなく、意見交換が必要な場合はその都度機会を持ち、職員の意見も取り入れるようにしています。	朝礼、ユニット会議、全体会議などでの職員の意見や声は運営の柱となっている。職員への個別面談は定期、随時行なうことが義務付けられており、公私含めいろいろな話を聞くことができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個人面談を実施し、ベースアップや職員個々の悩み、課題を把握し、解決に努めています。又、日頃より小まめに会話、交流を図り職場環境の充実に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には一定期間、管理者、リーダー、経験豊富な職員が個別指導に当たり、育成しています。毎月勉強会も実施しています。又、管理者の育成も計画立てて、随時研修の受講をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所との交流、訪問、情報交換の実施を行っています。又、近隣センターとも行事等での交流を図ったり、合同勉強会を毎月実施しています。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、担当ケアマネとの情報交換、入居前のホーム見学、自宅訪問等行い、本人と良く話して聞き取りを実施、安心した関係、環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者同様に家族の希望や困っていることに耳を傾け、安心して頂けるよう説明、信頼関係作りに努めています。又、入居前にケアプランを作成しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの際に迅速な対応が必要と判断した場合、適宜他サービス利用のアドバイスや進め方等伝えるようにしています。又、入居前にはスタッフ間で情報共有を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で入居者、職員の枠に囚われない心身の交流を大切にしています。家事や野菜、植物の育て方を教えて頂いたり、昔の話等を通して学び、支え合うことで関係を深めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年4回運営推進会議、年2回の家族会を設け、交流を促進し、行事や外出の際にはお知らせし参加等、足を運んで頂く機会を増やしています。面会時の近況報告等、家族の意見を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から特に禁止がない場合、訪問者は歓迎しています。家族の他、親戚や友人の方も定期的に訪問されており歓迎しています。本人が訪問者を思い出せない時には同席する等し、支援しています。	職場の上司だった人が訪問したり、親戚が差し入れをしてくれる人もいる。ホームも家族以外の訪問を歓迎している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話にはさりげなく関わりを持ち、他の入居者が孤立しないよう配慮しています。レクや行事の参加、日常生活の中でお互いを尊重した信頼関係が築けるよう支援に努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先や自宅へ訪問、今後の方針について話す機会を持つ等しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での関わり合いから、入居者それぞれの意向、希望の把握に努め、なるべく添えるよう支援しています。意思疎通が困難な方には、以前の生活歴や家族に相談し、検討しています。	コミュニケーションが可能な入居者には、直接尋ねたり、日ごろから選択肢を用意するようになっている。重度化している入居者については、生活歴から推測したり、家族から聴き取りしたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後における本人、家族からの聞き取り、日常会話等からも把握に努めています。又、これまでの担当ケアマネ等とも交流し、個人情報に配慮しながら情報交換に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを理解し、総合的に把握しています。会話や行動等、些細な変化も捉え気付きに努めています。変化時は申し送り、様子観察継続、個別ケアの取り組みを重視しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族の思いや意見を聞き、アセスメント、職員意見交換、担当者会議にて介護計画に反映、適切な取り組みが毎月モニタリング、評価を実施しています。大きな状況変化時にも情報交換、見直しを行っています。	月1回のユニット会議や併設のデイサービスも含めての全体会議を通じて、入居者の情報共有を行っている。記録類も詳細でこまめにつけており、本人本位の介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況や生活の様子、日常と異なる言動等、個別ケース記録として記録しています。ファイリングし、いつでも職員が確認できるようにしており、情報共有の徹底を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容や歯科サービス、訪問リハビリを利用しているが希望によって近隣の床屋へ行ったりしています。併設デイサービスとの連携で共に行事、レクリエーションを楽しんだり柔軟な支援を行っています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣小学校からの児童訪問や行事招待、幼稚園との交流、自治会主催の地域行事、お祭りへの参加等を通して地域交流を図り、協力しながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時同意の上、入居者、家族と連携を取り、協力病院とも良い関係を築いています。希望の病院がある場合そちらを優先しています。約一年前より訪問診療導入、連携も安定しており、適切な医療を受けられるよう支援しています。	入居者の重度化、ターミナルケアの増加に従い、定期的な訪問診療の導入、24時間医師と連絡できる体制を整えた。これによりより一層医療との連携が強くなり、安心感が増した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はセンター内看護師と連携を図り、日常の変化を捉え、健康管理や医療的な相談をしながら支援しています。又、訪問診療の導入により、さらに専門の適切な受診、看護を受けられるよう充実させています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	見舞いに行った際に医師や看護師等と情報交換、相談をして連携を図っています。又、定期受診等にて交流を図り良い関係を築いています。早期退院を目指した医師からの説明の際には、なるべく家族に同席して頂き、より良い支援につなげています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族や協力病院との面談や話し合いを十分に行い、それぞれが納得できる方針を打ち出し、頻繁な連絡と密な関係を築き、相談の上、医師、事業所看護師等との連携で一番良いと思われる支援をしています。	昨年度はターミナルケアや看取りを経験し、医療連携が充実した。入居者の逝去後、現場従業者へのデスクカンファレンス(亡くなった人についてのカンファレンス)も行い、職員の精神的ケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の際、職員は緊急マニュアルに沿って対応しています。又、会議等を通して対応方法の確認、実践力を身に付けられるよう勉強会を開いています。救命救急講習も職員順番に受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員火災対応として、消火器訓練、指導を受けています。消防署立会いのもと、避難訓練を行い入居者も参加しています。近隣住民に避難訓練のお知らせをしていますが、合同訓練には至っていません。夜間対応の訓練を実施する予定です。	1階にデイサービスセンターを併設した建物で、グループホームは2階にある。3月の大震災の際は、職員が入居者を抱えて非常階段を避難したとのことである。IH調理器を使用している。	火災や地震発生時の着実な避難誘導は、引き続き体制強化が望まれる。IHを過信せず、台所、風呂場他、各所の火の元チェックは必要と思われる。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録等は個人情報保護法に則り、取り扱っています。日常の中で本人の尊厳を損なう情報は会話にしないなどの配慮をし、意思を尊重し接しています。	訪問調査時、職員は丁寧に優しく入居者に接していた。言葉かけや対応は管理者が日々現場従業員に指導している。個人情報保護は法人全体で方針をつくり、順守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事やしたいことなど、自分の好きな事を選択し実施できるよう働きかけています。安全確保、行動の自由を制限しない言葉かけ等のびのびと過ごし自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの生活リズムを大切に、できるだけ入居者の思いや希望に沿った支援を心掛けています。業務優先にならないよう職員同士、注意しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の着替え等、意向や相談にのりながら季節に応じた選択ができるよう支援しています。毎月理容師、美容師によるヘアカット等の機会を設け、希望があれば近隣の床屋等にも付き添い、個々のおしゃれを楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日一人ひとりの力に合わせ、調理、配膳、下膳等に関わって頂いています。誕生日や季節行事等には本人の食べたいもの、好きなものを事前に伺い用意する等、希望をできるだけ取り入れるようにしています。	訪問調査時は大きな土鍋を囲んで、入居者と職員が楽しく食事をしていた。法人本部で献立を作成し、各ホームで食材を発注している。外食、行事食等も適宜取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に毎日の食事は栄養士によるバランスの取れた献立をもとに提供しています。食事、水分チェック表により一人ひとりの状態を把握し、支援しています。又、健康管理表で総体的に確認もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨き等を行っています。本人の力を活かし、声かけや介助を行って清潔を保持しています。必要に応じて訪問歯科利用、定期受診を実施し、義歯着用者は毎日の義歯洗浄剤での支援を行っています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、一人ひとりの習慣に合わせて声かけや誘導を行っています。声かけや交換の際には自尊心を傷つけないよう心掛け、支援しています。	入居者一人ひとりの状況に合わせて、トイレへの声かけやオムツ、パッド、リハビリパンツの利用をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて排泄リズムの把握に努め、コントロールが必要な場合は医師に相談、指示のもと支援しています。一日に一度体操や散歩を行ったり、朝牛乳を飲んで頂く等自然排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日沸かしており入浴の希望を伺い、体調を考慮しながら安心して入浴できるように声かけや対応を工夫しています。1階の大浴場は準天然温泉で、入居者も利用しており温泉気分を楽しんで頂くこともあります。	概ね一日おきに入浴している。併設のデイサービスには機械浴を設置しているが、介護度の重い入居者もホームの家庭的な浴槽を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は定めておらず、状況に応じて一人ひとりの生活習慣、体調を尊重して休んで頂いています。体操や散歩、日光浴等を行い、個々の生活リズムを作り安眠策を取って支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療導入後、薬剤師の薬管理を中心とし、職員は常に薬の意味、増減や変更の申し送りを把握しています。又、内服による変化や異常があった場合は、家族と医師、看護師等の医療機関に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前より好まれている趣味や得意なもの、不得手になってしまったことなど理解し、生活の中でできるものを見出し支援しています。喜びや生きがいとなるよう身体状況に合わせて役割を持って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があれば、職員が同行するようにしています。すぐに外出が難しい時には説明し、納得して頂くようにしています。又、季節ごとのドライブやイベント等外出の機会を毎月計画しています。天気が良い時には散歩等に出かけています。	散歩、買物、ドライブ外出などにこまめに çıkかけている。花見などの季節行事は年6回、外食は毎月行っている。	

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金はお預かりしています。買い物の際には入居者に支払ってもらうなど、状況に応じて支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族の意向を伺って行っています。年賀状や暑中見舞いなどは毎年書いて頂き、家族とのコミュニケーションを大切にしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気によって照明の強弱、カーテンでの調整を図っています。テレビ音量もほぼ一定に保ち、職員が話をする際声のトーン、速さに配慮しています。室内の装飾など入居者と相談しながら製作しています。	訪問当日はクリスマスの飾りつけがされていた。温かみのある家庭的な雰囲気のリビングだったが、エレベーターホールなどはヒンヤリしており、温度差が感じられた。	高齢者にとって冬場の温度変化は体調への影響が多いため、配慮が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が各居室を気軽に行き来し、エレベーター前共用スペースソファ等、思い思いの場所で過ごしています。洗面前ソファでは少人数でのコミュニケーションを取る機会が多く見られています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと家具、装飾など入居者が以前使い、慣れ親しんだ物を使用しています。新しく購入するものは、可能な限り本人と一緒に買い物へ行き、選んでもらうようにしています。	居室には衣類の収納と三角コーナー風の棚があらかじめ設置されている。その他の家具類は持込みが自由であり、個々に自分らしい部屋作りを行っていた。清掃やリネン交換は定期的に職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下の手すり、キッチンなど低めに設計されており、入居者が使いやすいようになっている等、安全と自立に配慮しています。居室は同じ造りの為、表札を分かりやすく手作りし、工夫しています。		